

質の高い探究の実現に向けた 社会との連携の推進等について



1. 質の高い探究の実現に向けた 社会との連携の推進について

<本日はご議論頂きたい事項>

1. 質の高い探究の実現に向けた社会との連携の推進について
2. 特活WG、道徳WGにおける総合に関わる議論の状況について
3. 情報・技術WGにおける総合に関わる議論の状況について

議論の前提

(これまでの議論)

- 総合WGでは、これまで、
 - ✓ 「探究の質」の考え方や、総合における資質・能力の捉え方
 - ✓ 総合の目標や内容を定める際、学校教育目標に加えて学校経営方針も踏まえる等、各学校の実情をカリキュラムに一層反映し易くする仕組み
 - ✓ 「テーマ探究」と「マイ探究」、「研究系」「行動系」「創作系」など、多様な探究の在り方
 - ✓ 総合の特質を踏まえた各教科等の「深い学び」との関係など、総合や探究をめぐる多岐にわたる論点について議論を重ねてきた。
- 「質の高い探究」を絵に描いた餅にせず、全ての学校において多様で豊かな実践が展開されるようにするためには、探究そのものが、「実社会・実生活との関わりから課題を見出す」という特質を有していることを踏まえ、体験機会の創出を含む、様々な形での実社会との連携が不可欠。

(現状と課題)

- 学校外の体験活動の機会について、低所得世帯の約3割が学校外での体験活動がないといったデータもある中で、学校が関わることでどのように実社会との関わりや体験の機会を作っていくかが課題。
- 児童生徒が探究の成果を発表するステージが、官民双方で広範に展開される等、社会全体で探究を応援する機運が醸成されてきている一方で、探究に関する伴走支援、地域の支援体制等が十分整備されていないことも相まって、特定の教師に負担が偏る傾向にもつながっている。(第1回WG)
- また、学校と社会の間のコーディネートや需給のマッチングについて、高校段階でのコーディネーター向けガイドブックの作成や、学校を支える体制の整備を含む様々な実践事例の蓄積等が見られる一方、コーディネートが必ずしもうまく機能せず、持続可能な取組につながらないケースもある。

検討の方向性

- ① 「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」との今次改訂の方向性のもと、質の高い探究の実現を図っていく上で、多様な他者との関わりを含む体験や経験が、興味・関心や問題意識を生み出す上での基盤となることから、社会と連携した多様な体験・経験の機会の充実が必要
- ② 学校教育を「自らの人生を舵取りする力」や「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成に繋げるために、学習機会や学力の保障に留まらず、学校教育後の、社会との関わりでの豊かな人生に繋げていく視点が重要であり、学校が目標や内容を定める特質を有する総合において、各学校の学校教育目標を社会に開かれた形で具現化することで、学校での学びを「生きて働く」ものとして実感する経験を重ねていくことも期待される
(※) とりわけ、学校統廃合が進む中、地域との関わりで育てたい子供像を明確化し、その実現に向けた地域との連携が一層重視されてきている側面もある
- ③ これまで議論してきた質の高い、多様な探究の実現に向けた様々な施策は、社会との適切な接続や連携なくしては実現できない。とりわけAI時代において、情報端末を通じた関わりにとどまらない、実社会でのリアルな体験や人間関係が、学校教育の意義や価値とも関連して重要

⇒ 「質の高い探究」の「実現可能性の確保」に不可欠な視点として、社会との連携の推進や、そのための具体的な手立てを検討してはどうか。

具体的論点（案）

1. 社会と連携した豊かな総合の実現に関わる論点【補足イメージ1、2】

- 令和答申では、「社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障」を日本の学校教育の3つの本質的な役割（※）の1つとして掲げ、地域社会との関わりを含む様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる、としている。

（※）①学習機会と学力の保障、②全人的な発達・成長の保障、③身体的、精神的な健康の保障

- 今般の検討においても、「自らの人生を舵取りする力」「民主的で持続可能な社会の創り手」育成の役割を果たしていくことを重視している。また、令和8年2月に策定した高校改革のグランドデザインでは、地域、大学、産業界を含む全てのステークホルダーと連携・協働し、社会変化に対応する高校教育を一丸となって進めていく方針を打ち出している。

- こうしたことに鑑み、今次改訂では教育課程全体を通じて学校と社会との一層の連携を推進し、社会に開かれた教育課程をより高い次元で実現することが必要。

- この中でも、とりわけ総合は、学校裁量が極めて大きく、教科間や学校と社会との壁を越えた交流や創造を実現する上での、教育課程上の「出島」としての役割が期待される。また、「質の高い探究」を絵に描いた餅にせず、各学校において実現可能なものとする視点や、探究そのものの、「実社会・実生活との関わりから課題を見出す」という特質からも、社会との連携の一層の推進が極めて重要。

- 一方、学校にとって、地域や社会との関係は多様である中で、社会との連携それ自体が、時に大きな負担感を伴う側面もあり、探究に関わる高校教師の4割超が「外部との連携・協働」に課題を感じているといった調査結果もある。また、社会の側からは、学校教育への関わり方が分からない、といった声も聞かれる。

- これらを踏まえ、各学校の多様な状況を踏まえた取組の推進に資するよう、以下の論点について、考えられる施策の検討や、参考となり得る様々な実践事例の発信を行うこととしてはどうか。

- ① 学校教育目標及び学校経営方針を踏まえた総合の推進
- ② 「社会」×「子供」の関わり方の在り方
- ③ 「学校」×「社会」の体制構築の在り方
- ④ 伴走者やコーディネーター、学校関係者の資質・能力の向上の在り方
- ⑤ 探究の成果発表に関わる多様な機会の充実の在り方
- ⑥ 探究の充実に向けた費用負担の在り方

総合における社会との連携に関わる課題（イメージ）

- **総合における社会との連携**について、「**子供**」、「**学校**」（教師・学校等）、「**社会**」（地域・企業・大学・NPO・社会教育施設等）の関係として捉えた場合、**以下のような課題を踏まえた検討が必要**ではないか。

「自らの人生を舵取りする力」

「民主的で持続可能な社会の創り手」

を育成する教育課程の実装

探究の質の高まり

子供



自己の興味・関心や
問題意識に基づく課題の解決
多様な体験や経験が基盤

- ○○が好き！
- ○○することが得意！
- ○○に挑戦したい！

- 自分の興味・関心に基づく課題、と言われても…

- 特色あるカリキュラムは学校だけでは難しい…
- 興味・関心や問題意識に基づく探究をうまく指導できる自信がない…
- 校外活動が増えると、子供の安全管理も不安…

- 教育については素人なので、子供たちへの接し方に自信がない…

- 探究を深める時間も、外部との連携の時間も、なかなかとれない…

- 教育に関わりたいが、つながりがなく、何が求められているかも分からない…

教師・学校 等



地域・企業・大学・
NPO・社会教育施設 等



- 外部の力を借りるには、お金もかかるし、学校を分かってくれる人じゃないと、逆に負担…

総合における社会との連携に関わる論点（イメージ）

- 総合における社会連携の重要性や、学校現場が直面する課題感に鑑みれば、**総合が学校における学びと社会との連携の舞台としての役割を一層果たしていく上で、各学校や地域が置かれた多様な状況に照らした取組の推進に資するよう、以下の論点について、考えられる施策の検討や、参考となり得る様々な実践事例の発信を行うこととしてはどうか。**

「自らの人生を舵取りする力」

「民主的で持続可能な社会の創り手」

を育成する教育課程の実装

⑥ 探究の充実に向けた費用負担の在り方 【補足イメージ7】

- 質の高い探究の実現を通じて、社会との関わりの中で豊かに学ぶための、公費に留まらない負担の在り方や、そのための社会的な機運の醸成の在り方 等

⑤ 様々な体験機会や成果発表に関わる機会の在り方 【補足イメージ6】

- 子供が地域・社会と関わりの中で豊かに学ぶ上で機能し得る、多様な機会の1つとしての成果発表の機会の充実 等

探究の質の高まり

子供



自己の興味・関心や
問題意識に基づく課題の解決

多様な体験や経験が基盤

① 学校教育目標及び学校経営方針を踏まえた総合の推進等

- 学校教育目標等を踏まえた目標・内容の設計
- 目標の実現に向けた適切な指導性の発揮、指導体制、安全管理 等

② 「社会」×「子供」の関わり方の在り方 【補足イメージ3】

- 地域・社会人材の多様な関わり方を踏まえた探究への伴走の在り方 等

④ 関係者の資質・能力の向上の在り方 【補足イメージ5】

- 伴走者やコーディネーター、学校関係者の資質・能力の向上に向けた機会の確保 等

教師・学校 等



③ 「学校」×「社会」の連携体制の在り方 【補足イメージ4】

- 学校の負担感の低減を含む、学校と社会の円滑な連携を支える多様な体制構築の在り方 等

地域・企業・大学・
NPO・社会教育施設 等



具体的論点（案）

2. 具体的な論点

（①学校教育目標及び学校経営方針を踏まえた総合の推進等）

- 各学校が目標と内容を定める総合の特質を踏まえ、総則では学校教育目標と総合の目標との関連を図ることとしている。これに加え、第3回WGでは、その時々の学校運営に関する方向性を、よりよく総合のカリキュラムに反映させるとともに、地域とのよりよい連携を図る観点から、学校教育目標のみならず、学校の運営に関わる「基本的な方針」とも関連を図ることについて議論。
- また、今次改訂では、調整授業時数制度や裁量的な時間など、学校が裁量を持って教育課程を編成するとともに、これらの活用方針を含む教育課程編成の方針について、学校運営協議会の承認を得ること等を通じて、地域への説明責任を果たしていくことが議論されている。

（※）更に、総則・評価特別部会で示された「カリマネの3ステップ」においては、子供の実態や学校教育目標・経営方針等を基に、地域を含む関係者対話・協議し「ねらいの明確化」を行うとともに（ステップⅠ）、「教育課程の編成・実施・調整や環境整備」（ステップⅡ）にあたり、各学校で目標を定める総合と各教科等の繋がりを意識することが重要であることを示すとともに、学校運営協議会や保護者、地域の企業・団体等とも連携し、ねらいの達成に向けた体制整備を行うこととしている。

- 総則・評価特別部会で議論されている「カリマネの3ステップ」も踏まえ、過度な負担を生じない形で「ねらい」の具体化を図る総合の目標・内容の設定の在り方や、全体計画への反映の在り方、学校運営協議会との連携の在り方やその際の留意事項について、解説や指導資料で丁寧に示してはどうか。
- 裁量的な時間（研究・研修等枠）で実施可能な取組の類型として、企業・団体等と連携した探究学習の実施に向けた研究会の実施や、地域の方々と連携したカリキュラム開発に向けた協議を示したことを受け、具体的な事例等を提供してはどうか。
- 社会との連携が単なる活動に陥ることを避け、豊かな学びにつなげるための教師の指導性の発揮の在り方や指導體制の在り方、子供の興味・関心や問題意識に基づき探究が多様化し、学校外に展開していく中で一層重要となる安全管理の在り方についても、併せて解説や指導資料で示してはどうか。

（②「社会」×「子供」の関わりの在り方）【補足イメージ3】

- 興味・関心を広げたり、リアルな実感を伴って探究を進めたりする上で、社会で活躍する本物の大人と子供たちが直接関わる機会が重要。また、多くの企業等が学校教育に関わることに意欲を有しているとのデータがある一方、学校のニーズが分からない、学校側との期待値調整が難しく学校や子供から過大な要求があり応えられない場合がある、といった指摘も見られる。
- このため、「社会」側が提供できる資源と学校のニーズや期待値との円滑なマッチングに資する観点から、「社会」側の連携へのコミットメントの度合いに応じて、おおまかに3層程度で、連携の深まり方のパターンをイメージとして示した上で、マイ探究／テーマ探究や、研究系／行動系／創作系といった探究の形態等に応じた多様な事例を、各学校の実態に応じた柔軟な連携を進めていく上での参考として示してはどうか。

1. 出会い（単発、きっかけの提供）

- ✓ ゲストティーチャーとしての講話、インタビュー、体験、ワークショップ 等

2. 伴走（年数回以上、社会とつながる視座の提供）

- ✓ 中間レビュー、助言、成果発表の受け手 等

3. 協働（年5回程度以上、課題に取り組む協働者として活動）

- ✓ 学習者が責任の一部を担う等して協働 等

「子供」×「社会」の視点での関わり方の例（イメージ）

- 多くの企業等が学校教育に関わることに意欲を有しているとのデータがある一方、学校のニーズが分からない、学校側との期待値調整が難しく学校や子供から過大な要求があり応えられない場合がある、といった指摘も見られる。
- このため、「社会」側が提供できる資源と学校のニーズや期待値との円滑なマッチングに資する観点から、「社会」側の連携へのコミットメントの度合いに応じて、おおまかに3層程度で、連携の深まり方のパターンをイメージとして示した上で、マイ探究／テーマ探究や、研究系／行動系／創作系といった探究の形態等に応じた多様な事例を、各学校の実態に応じた柔軟な連携を進めていく上での参考として示してはどうか。

連携への「コミットメント」

(深)

連携の深まり方（イメージ）		具体事例
<p>1. 出会い (Encounter) 本物「から」学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ゲストティーチャーとしての講話、インタビュー、体験、ワークショップ ■ 単発（きっかけの提供） 	<p>① 山梨県立笛吹高等学校 高校 コミュニティ・スクールを基盤に、地域の専門家が探究の入口としての「課題発見ワークショップ」を開催</p> <p>② 静岡県立ふじのくに国際高等学校 高校 地域の達人との出会いから始まる探究</p> <p>③ 上越市立大手町小学校 小学校 父親応援団の活動支援により、多様な体験機会を確保</p>
<p>2. 伴走 (Mentor) 本物「を」意識して学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中間レビュー、助言、成果発表の受け手 ■ <u>年数回程度以上</u>（社会とつながる視座の提供） 	<p>① 横浜市立大岡小学校 テーマ探究 創作系 小学校 日立横浜理科クラブの方々とともに、ものづくりを学ぶ</p> <p>② 小学校×特定非営利活動法人みんなのコード マイ探究 行動系 小学校 授業の共同実践を通じたプログラミングによる「学びの作品化」</p> <p>③ (公社) 日本青年会議所×東京学芸大学 中学校 日本青年会議所メンバーによる「探究創造コーチ」認定制度を活用した授業サポート</p>
<p>3. 協働 (Collaborate) 本物「と」学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習者が責任の一部を担う等して協働 ■ <u>年5回程度以上</u>（課題に取り組む協働者として活動） 	<p>① 佐渡市立新穂中学校 マイ探究 行動系 中学校 「課題解決型職場体験」</p> <p>② 株式会社丸井×株式会社幕明 テーマ探究 行動系 小・中 企業とのリアルな仕事体験を通じ、将来世代が未来に向かって挑戦する力を育成</p>

※三つの類型は優劣を示すものではなく、学習の目的や学校・地域の実情に応じて無理なく選択・組み合わせるものであることに留意。

具体的論点（案）

（③「学校」×「社会」の連携体制の在り方）【補足イメージ4】

- 学校と社会との連携を具体化していく上では、人材を含めた地域資源の開拓や、実施に向けた調整等が必要となるが、こうしたコーディネート機能を教師の献身のみに頼るモデルは現実的ではなく、外部人材を含めたコーディネート機能の充実が求められる。
- この点、これまで、特に高校については、
 - ✓ 全国で200名以上の高校コーディネーターが活動
 - ✓ コーディネーター人材についての特別交付税措置等の財政措置など、取組が進展。また、「高校と地域をつなぐ人材の在り方研究会 報告書（R2.3）」、「高校コーディネータースタートガイドブック（R7.7）」などでの、コーディネーター人材の位置づけや役割等に関わる知見の蓄積も見られる。
- また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する手引き（令和8年3月改訂）では、地域資源を活かした探究の充実を図るため、
 - ✓ 学校運営協議会の承認事項である「教育課程の編成」について協議する際、総合における地域や社会と連携・協働について検討すること
 - ✓ 探究学習に必要な人的・物的体制を確保するため、地域学校協働活動推進員等が地域の関係機関等との調整役を担うこと
 - ✓ 協議会において学校、家庭、地域の役割分担を議論し、共通理解につなげていくこと
 - ✓ 総合などにおいて、専門的な知見や技能、経験を持つ外部人材が学習を支援する活動なども、地域学校協働活動に該当することが新たに明記された。これを踏まえ、地域学校協働活動推進員がコーディネーターとしての役割を担いつつ、学校運営協議会と連携して、地域の支援を総合の充実に活かしていくことが期待される。
- 更に、令和2年度から始まった「社会教育士」は、多様な主体と連携・協働しつつ、社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる専門人材である。令和7年度までに約1.2万名に称号が付与されているが、「ファシリテーション能力」や「コーディネート能力」の専門性の習得に係る課程や講習を修了しており、コーディネーターに必要な能力と重なる部分が多いことから、学校運営協議会や地域学校協働活動推進員との連携も含め、社会教育士との連携を、質の高い探究を支えるコーディネート機能の充実に向けた選択肢の1つとして推進してはどうか。（生涯学習分科会でも、「地域学校協働活動推進員・高校コーディネーターとしての社会教育士の活躍の促進」や、「学校の探究学習との連携・協働の推進」について議論中）
- その上で、地域以外にも、企業・団体・NPO、大学、行政、コンソーシアムといった多様な主体がコーディネート機能を担う場合があることや、その場合のコーディネートを担う範囲や態様についても、学校単位、自治体単位など多様であることから、自治体や各学校が実態に応じて体制を構築したり、社会側と調整を行う際の参考とできるよう、全国の実例を踏まえた、学校と社会の連携を支える多様な体制構築の在り方について、多様な事例とともに示してはどうか。その際、コーディネーター配置のための特別交付税措置や、地域学校協働活動に関する補助金（探究の支援にも活用可能）なども併せて周知してはどうか。
 1. **地域**
 - ✓ 学校運営協議会・地域学校協働活動推進員、保護者、卒業生 等
 2. **企業・団体・NPO**
 - ✓ 地域の企業、経済団体、NPO、コンソーシアム 等
 3. **大学**
 - ✓ 国公立大学、私立大学 等
 4. **行政**
 - ✓ 都道府県、市町村、社会教育施設（※）、独立行政法人 等

（※）民間団体等が設置する社会教育関係施設は「2.企業、団体、NPO」に含まれる。

「学校」×「社会」をつなぐ体制構築に関わる手立て（イメージ）

- 学校と社会との連携を具体化していく上では、**人材を含めた学習材となる地域資源の開拓**や、**実施に向けた調整等**が必要となるが、こうした**コーディネート機能を教師の献身のみに頼るモデルは現実的ではなく、外部人材を含めたコーディネート機能の充実**が求められる。
- このため、自治体や各学校が実態に応じて**体制を構築したり、社会側と調整を行う際の参考**とできるよう、全国の実例を踏まえた、**学校と社会の連携を支える多様な体制構築の在り方**について、**多様な事例とともに示す**こととしてはどうか。

体制の在り方の例（イメージ）		関連する国事業等 （R8現在（※1））	具体事例
1. 地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校運営協議会、地域学校協働活動推進員 ■ 保護者 ■ 卒業生 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 【補助率：国1/3、県1/3、市町村1/3】 	①山梨県立笛吹高等学校 コミュニティ・スクールを基盤に、地域の専門家が探究の入口としての「課題発見ワークショップ」を開催 高校 ②日野市立日野第四小学校 保護者有志が窓口となり、子供たちのマイ探究を支援 小学校 ③千葉県立長生高等学校×卒業生 卒業生が探究を支援 高校 ④立命館宇治高等学校×卒業生 学校・地域・卒業生・大学が連携し、探究とキャリア教育を社会へ開く 高校
2. 企業、団体、NPO	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の企業 ■ 経済団体 ■ NPO ■ コンソーシアム 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 【補助率：国1/3、県1/3、市町村1/3】 	①広島県立大崎海星高等学校×商工会 「教育の島」発、地域と協働した高校魅力化 高校 ②UMK テレビ宮崎 地元メディアを核とした探究支援体制の構築 高校 ③NPO法人しずおか共育ネット 「一歩踏み出す」学びの仕組みを構築 高校 ④ぐんま探究コンソーシム 地域全体で探究を支える「ぐんま探究コンソーシム」 高校 ⑤企業×大学×環境省 SFLコンソーシアムの活動の一環としての次世代人材育成 高校
3. 大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国公立大学 ■ 私立大学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 探究・校務改革支援補助金（経産省） 【補助率：民間団体1/2等】 	①東京大ONG 大学の資源と中高生の学びの接続をコーディネート 中・高 ②東北芸術工科大学 デザイン思考を活用した探究学習支援を核に高大連携 高校 ③桜美林大学 講師からの探究課題×大学生メンターで高校の探究プログラムをコーディネート 高校
4. 行政	<ul style="list-style-type: none"> ■ 都道府県 ■ 市町村 ■ 社会教育施設(※2) ■ 独立行政法人 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別交付税（地域おこし協力隊、公立高校と地域産業界連携のためのコーディネート配置等） ■ 高等学校教育改革推進基金 	①岐阜市教育委員会 学校任せにしない社会連携に向け、地域人材・体験機会・カリキュラムを一体的につなぐ 小・中 ②京都市教育委員会 「生き方探究教育（キャリア教育）」の推進 小・中 ③福井県教育委員会 県立高校の探究的な学びを支援する体制・仕組みの構築 高校 ④新潟県（三条高等学校） 学校図書館を活用した地域課題解決をテーマとした探究学習の実践 高校 ⑤国立青少年教育振興機構 自然体験を伴う探究学習プログラムのサポート 小・中・高 ⑥日本科学未来館 実体験や対話を通じて関心を引き出す「探究学習プログラム」の推進 中・高

（※1）「関連する国事業等」の財政措置等がなされるか否かは、事業内容等により個別に決定されることに留意。

（※2）民間団体等が設置する社会教育関係施設は「2.企業、団体、NPO」に含まれる。

具体的論点（案）

（④伴走者やコーディネーター、教師をはじめとする学校関係者の資質・能力の向上の在り方等）【補足イメージ5】

- 伴走者については、「子どもたちへの接し方に自信がない」（伴走者）、「安全管理等、学校にとってのリスクが心配」（学校）といった声もあることも踏まえ、社会人の伴走者が、学校教育の一環として子供の探究に関わるにあたって必要な資質・能力を高めていくことが必要。
- また、コーディネーターについては、「何が求められているのかが分からない」（コーディネーター）、「コーディネーターと十分に連携する時間の確保が難しい」（学校）といったケースもあることも踏まえれば、コーディネーター人材が、学校の実情に対する深い理解を含め、円滑なコーディネートを行うために必要な資質・能力を高めていくことも重要。
- 更に、学校については、「外部人材との調整に負担感を感じる」（学校）、「うまくコミュニケーションが取れない」（伴走者）といったケースもあり、社会との連携に強みや専門性を持ち、外部人材と教職員とを橋渡しする教職員がいることや、社会との連携に係る学校内の共通理解を含め、社会の本物としての多様な人材と関わりながら、子供たちが豊かに学ぶ土壌を学校側が有していることも重要。
- こうしたことや、外部人材と学校との連携を一層図っていく上では、性暴力の防止をはじめとする安全管理の視点も重要となること等も踏まえ、1.伴走者、2.コーディネーター、3.学校関係者のそれぞれについて、学校と社会が連携し、質の高い探究を実現するにあたって必要な資質・能力を身に付けるための多様な方策について検討するとともに、自治体や学校が参考にできる取組事例等を提供してはどうか。また、検討にあたっては、オンラインの活用や、学習歴を可視化する仕組みとの連携についても、生涯学習政策や高等教育政策の動向を踏まえつつ、在り方を検討していくこととしてはどうか。
- また、近年、学校が組織的に対応すべき横断的な課題・取組が多様化・複雑化していることを踏まえ、給特法等一部改正法（※）により、教育活動に関し教職員間の総合的な調整を行う職として、本年4月より新たに置くことができることとされた主務教諭に想定される多様な職務の一例として、こうした社会との連携に役割を果たしていくことや、そうした場合の運用形態も含め、学校側の体制についても、今後、検討を進めていくこととしてはどうか。

（※）公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律（令和7年法律第68号）

1. 伴走者

- ✓ コミュニティ・スクール関係者に向けた、学校との協働に関わる研修
- ✓ 教職員支援機構や大学が実施する、地域人材や民間人材に向けた研修 等

2. コーディネーター

- ✓ 地域学校協働活動推進員に向けた研修
- ✓ 社会教育主事の養成課程（※）や講習との連携 等

3. 学校関係者

- ✓ 地域や社会との連携について強みや専門性を有する教師の養成や、強みをさらに伸ばすための研修
- ✓ 社会に開かれた形での、学校教育目標や学校経営方針に基づく教育課程編成の推進
- ✓ 社会と連携しつつ質の高い探究を進める校内研究 等

（※）現行制度では、社会教育主事の養成課程・講習の修了者に「社会教育士」の称号を付与。今後の社会教育主事・社会教育士の養成の在り方については、現在、生涯学習分科会「社会教育の在り方に関する特別部会」において審議中。

伴走者やコーディネーター、学校関係者の 資質・能力の向上に向けた手立て（イメージ）

- **1.伴走者、2.コーディネーター、3.学校関係者**のそれぞれについて、**学校と社会が連携し、質の高い探究を実現するにあたって必要な資質・能力を身に付けるための多様な方策**について検討するとともに、**自治体や学校が参考にできる取組事例等**を提供してはどうか。また、検討にあたっては、**オンラインの活用や、学習歴を可視化する仕組みとの連携**についても、生涯学習政策や高等教育政策の動向を踏まえつつ、在り方を検討していくこととしてはどうか。

方策の例（イメージ）		具体事例
1. 伴走者	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティ・スクール関係者に向けた、学校との協働に関わる研修 ■ 教職員支援機構や大学が実施する、地域人材や民間人材に向けた研修 等 	① 東京学芸大学×（一社）民間人材教育参画推進機構 「探究創造コーチ」認定制度・支援システムを通じた伴走者の教育参画・資質向上支援 小・中・高
2. コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域学校協働活動推進員に向けた研修 ■ 社会教育主事の養成課程や講習との連携等 	① （一財）地域・教育魅力化プラットフォーム コーディネート人材の採用・配置・育成の一体的支援 高校 ② 瀬戸市教育委員会 コーディネーター・教職員・委員がともに学び、つながるコミュニティ・スクールの推進 小・中
3. 学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域や社会との連携について強みや専門性を有する教師の養成や、強みをさらに伸ばすための研修 ■ 社会に開かれた形での、学校教育目標や学校経営方針に基づく教育課程編成の推進 ■ 社会と連携しつつ質の高い探究を進める校内研究 等 	① 広島県教育委員会 高校 県内全ての高校を対象に「スクールポリシー」と総合のカリキュラムを接続する研修 ② 神奈川県立総合教育センター 高校 管理職・担当者のバディを対象とした研修 ③ 新潟市立新潟小学校 小学校 校内研究に総合を位置付け、社会との連携を促進 ④ 品川区立伊藤学園（義務教育学校） 小・中 「探究的な学び」の校内研究で、教師の学びの概念を並行して変える

具体的論点（案）

（⑤放課後を含む体験機会や、探究の成果発表に関わる多様な機会の充実の在り方）【補足イメージ6】

- 経済的な格差が学校外の様々な体験格差につながっているといった調査結果がある中で、自己の興味・関心や問題意識に基づく探究の基盤となる体験や経験の機会を、社会と連携しながら設けていくことが重要。一方、授業時間には限りがあり、学校教育の中だけで実現できる範囲には限界もある。
- こうした中、子供たち一人一人の興味・関心や問題意識の種を育てていく上では、放課後も含めた学校外の様々な機会と、総合との接続をゆるやかに図っていくことも重要であり、例えば、全国約12,000か所（補助金交付実績）で実施されている放課後子供教室について、家庭の状況等に関わらず、多様で質の高い体験が得られるよう、地域学校協働本部をはじめ多様な主体と連携しながら学習・体験活動としての高度化を図り、マイ探究等にもつながる様々な体験や経験ができる環境をつくっていくことも重要ではないか。また、こうした放課後における社会との連携は、円滑な教育課程内の連携の素地をつくっていくことにもつながっていくのではないか。
- また、児童生徒が探究の成果を発表するステージが、官民双方で広範かつ複層的に展開される等、社会全体で探究を応援する機運が醸成されてきている中で、こうした発表の機会は、子供にとっての学習の動機づけになり得るとともに、探究のプロセスを通じて社会と関わる豊かな体験や経験の機会にもなり得るものであり、地域間の差の解消も必要。
- こうした中、教師の指導性の発揮の一環として、総合での学びを「外化」することで学びを深める機会につなげることや、その際の発表の機会の在り方について、解説で取り扱うとともに、学校現場の取組の充実の参考となるよう、1. 学校主体の取組のみならず、2. 行政主体、3. 大学、企業、NPO等主体の多様な事例を紹介することとしてはどうか。
- また、探究成果の発表ステージの状況を可視化し、自治体等の取り組みを促してはどうか。
 1. **学校主体**
 - ✓ 文化・学習発表的行事
 - ✓ 地域での成果発表
 - ✓ 外部での成果発表の機会との接続
 2. **行政主体**
 - ✓ 学校を横断した成果発表の機会
 3. **大学、企業、NPO等主体**
 - ✓ 多様な機会の提供

探究の成果発表に関わる多様な機会の充実にに向けた手立て（イメージ）

- 児童生徒が探究の成果を発表するステージが、官民双方で広範かつ複層的に展開される等、社会全体で探究を応援する機運が醸成されてきている中で、こうした発表の機会は、子供にとっての学習の動機づけになり得るとともに、探究のプロセスを通じて社会と関わる豊かな体験や経験の機会にもなり得るものであり、地域間の差の解消も必要。
- こうした中、教師の指導性の発揮の一環として、総合での学びを「外化」することで学びを深める機会につなげることや、その際の発表の機会の在り方について、解説で取り扱うとともに、学校現場の取組の充実の参考となるよう、1. 学校主体の取組のみならず、2. 行政主体、3. 大学、企業、NPO等主体の多様な事例を紹介することとしてはどうか。

方策の例（イメージ）		具体事例	
1. 学校主体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化・学習発表的行事 ■ 地域での成果発表 ■ 外部の成果発表の機会との接続 	①横浜市立本町小学校×地域の催し等 地域住民・保護者に探究の成果を発表（第3学年「にこにこぬりーえ」） ②横浜市立南高等学校×日本政策金融公庫 校内や外部の成果発表の機会を活用し、探究を実現可能な提案へ磨く	小学校 高校
		①双葉郡ふるさと創造学サミット 双葉郡8町村の小中高校生が学びを共有 ②埼玉県戸田市教育委員会 プレゼンテーション大会を通じた各学校におけるPBLの実効性向上 ③北海道教育委員会（北海道、札幌市、北海道大学、ニトリによる連携協定） 学校・大学・企業・行政が連携した「BRIDGE構築事業」で探究の充実を目指す ④内閣府 RESAS・RAIDAを活用した地方創生☆政策アイデアコンテスト	小・中・高 小・中 高校 中・高
2. 行政主体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校を横断した成果発表の機会 	①全国高校生マイプロジェクト（認定NPO法人カタリバ） 「自分の問い」から始め、実社会で行動する実践型探究 ②（公社）日本青年会議所 関東地区 神奈川ブロック協議会 神奈川県内の先生の輝かしい成果だけでなく、泥臭い「実践の過程」そのものを表彰 ③（公財）教科書研究センター 「教科書を使って探究学習」コンクール ④株式会社トモノカイ 探究の可能性を広げる全国EXPO	高校 小・中 小・中・高 中・高
3. 大学、企業、NPO等主体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な機会の提供 		

具体的論点（案）

⑥探究の充実に向けた費用負担の在り方 【補足イメージ】

- 高校教師の約6割が、「予算不足で十分な授業が行えない」ことを総合の課題とする調査があるなど、社会との連携を含めた多様な探究を、手弁当で進めていくことには限界がある。
- 一方、教育機関に寄付したい・検討してもよいと考える個人は数多く存在し、企業でも、社会貢献活動のうち、教育分野への関心が最も高いとする調査もある。
- こうした中、保護者負担や行政による費用負担だけで、質の高い探究に向けた多様な取組を持続可能なものとしていくことは容易ではなく、必要なリソースの確保について、全国で様々な実践の蓄積も見られるところ、地域や学校の実態に応じた取組の充実の参考となるよう、1. 学校主体の取組、2. 行政主体の取組、3. 大学、企業、NPO等主体の取組について、多様な事例を紹介することとしてはどうか。
 1. **学校主体**
 - ✓ 学校としてのクラウドファンディング等を通じたリソースの確保の取組
 2. **行政主体**
 - ✓ ふるさと納税等を活用したリソースの確保の取組
 - ✓ 国事業等を活用したリソースの確保の取組
 3. **大学、企業、NPO等主体**
 - ✓ 特定のテーマや支援領域について、企業がリソースを提供する取組
 - ✓ メディアと連携することで、ブランド価値の向上により取組を持続可能としている事例 等

⑦社会との連携を含む多様な事例の共有

- 論点整理では、「探究の質の向上及び学校の負担軽減を図るため、実践の蓄積を可視化する形で、裁量性を維持しつつ、教員や児童・生徒が参照できる参考資料を作成すべき」とされている。
- これに加え、これまで議論してきた、質の高い探究の実現に向けた多様な社会との連携の在り方や、「研究系、行動系、創作系」、「テーマ探究、マイ探究」といった多様な探究の在り方等に関わる議論も踏まえつつ、学校に関わる様々な当事者の創意工夫による多様な実践例について、関係者が参照できる分かり易い参考資料として示すことを検討してはどうか。

探究に関わるファンディングの充実に向けた手立て（イメージ）

補足イメージ7

- 高校教員の約6割が、「予算不足で十分な授業が行えない」ことを総合の課題とする調査があるなど、社会との連携を含めた多様な探究を、手弁当で進めていくことには限界がある。
- 一方、教育機関に寄付したい・検討してもよいと考える個人は数多く存在し、企業でも、社会貢献活動のうち、教育分野への関心が最も高いとする調査もある。
- こうした中、保護者負担や行政による費用負担だけで、質の高い探究に向けた多様な取組を持続可能なものとしていくことは容易ではなく、必要なリソースの確保について、全国で様々な実践の蓄積も見られるところ、地域や学校の実態に応じた取組の充実の参考となるよう、**1. 学校主体の取組、2. 行政主体の取組、3. 大学、企業、NPO等主体の取組について、多様な事例を紹介**することとしてはどうか。

方策の例（イメージ）		具体事例・留意点	
1. 学校	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校のクラウドファンディング ■ ふるさと納税と連携した資源確保 ■ 生徒自身で出資等を募集 等 	①幸手市立行幸小学校 クラウドファンディングを活用して課題解決を実装 小学校	
		②竹原市立吉名学園（義務教育学校） ふるさと納税返礼品の企画・開発による寄付金を、総合の充実に活用 中学校	
		③埼玉県立小川高等学校 IR（投資家）説明会を通じて、出資を募る 高校	
		④島根県立飯南高等学校 生徒自身が探究の資源を確保する「資源獲得プレゼン」 高校	
2. 行政	<ul style="list-style-type: none"> ■ ふるさと納税の活用 ■ 基金の造成 ■ 国事業等の活用 等 	①龍ヶ崎市 「母校応援ふるさと納税」を活用し、高校生の「やりたい」をサポート 高校	
		②鎌倉市 寄付金を活用し、先生・こどもの“やりたい”を叶える体験的・探究的学びを支援 小・中	
		③加賀市（※） 地域プロジェクトマネージャーの活用 小・中	
		④島根県（※） 教育魅力化コーディネーター人材の登用・活用 高校	
		⑤都留市（※） 民間企業シニア人材の学校現場への登用 小・中	
		⑥総務省（※） 地域活性化関連施策の教育分野への活用 高校	
		⑦国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金」を通じた多様な体験機会の創出 小・中・高	
3. 大学、企業、NPO等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業や財団による助成 ■ メディアの発信力を生かして取組を持続可能としている事例 等 	①（一財）三菱みらい育成財団 若者の育成を目指す教育活動への助成・ネットワークづくり 高校	
		②（公財）パナソニック教育財団 学校教育に対する研究・助成事業 小・中・高	
		③（公財）笹川平和財団 海を通じた「世界と地域の未来」の想像力と創造力の育成 小・中・高	
		④ Study Valley、Omochi（※） 企業がメディアの発信力を生かして行う取組 中・高	

（※）を付した資料は経済産業省 イノベーション創出のための学びと社会連携推進に関する事例集（令和7年1月）等より作成